

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	馬込ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が広がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が「この動物はなんて鳴くか知っている?」「英語でも同じ鳴き声かな?」と問いかけると、子どもたちは「リゼイン先生は英語しか話せないけど、鳴き声は同じだよ」「でも、英語と日本語はことばが違うから、鳴き声も違うんじゃない?」と自分の考えを伝え合っていました。やり取りを通して、日本語と英語が異なることばであることを理解している様子がうかがえます。

【流れ】英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声の入った歌を歌ったり、動物以外の乗り物カードで英語の擬音語遊びなどを行い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。また皆で一緒に英語で使っている絵カードで《オノマトペ》遊びをします。このように、子どもも大人も一緒に英語と日本語での《オノマトペ》を共有します。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

* 読み聞かせ：4歳児クラス * 歌：4歳児クラス * カード遊び：4歳児クラス

* 英語で工作：4歳児クラス

【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

- * 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"
- * 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード
- * 2024年度に使用した英語の絵本："The very hungry caterpillar","Today is Monday"
- * どうぶつ図鑑：本当の動物の鳴き声とは？



4 -①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・「ゆかいな牧場」は聞いた事がある子が多くいたため、曲が流れると興味を示す子がいた。リズムに合わせて手を叩いたり、保育者の真似をしたりしながら歌を口ずさみ自分でもリズムに合わせて身体を動かす子どもの姿が見られた。「イアーイアーイオー」の繰り返しでは大きな声で歌っていた。動物の鳴き声、動きなどは自分達で考え行っていた。

4 -①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。英語のオノマトペの絵本"Mr.Brwon can say moo!"を英語講師が読み聞かせる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・絵カードがあったのでイメージしながら参加できている様子があった。
「イーアイオーイーアイオー」のフレーズは繰り返しのため元気に歌う子が多くいた。日本語と英語が混じり歌う子もいた。

何の動物の鳴き声か英語講師に質問されると「Y e s」「N O」で答えていた。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみることで、違う部分や、同じ部分を子どもたちが気づくようになってきた。日本語の「ゆかいな牧場」は保育中に歌ったりすることがあまりなく、聞いて初めて曲や歌に興味を示す子どもが多くいたため、早い時期にクラスで曲を流すなどの工夫が必要だったと思う。また、動物についての図鑑などを子どもが自由に見れるようにしていく。・絵カードがあることで、英語の方は歌詞が覚えやすく動物の名前、鳴き声と覚えやすかったと思う。英語の歌は昨年度も歌っており、日本語よりも歌いやすかったように感じた。

【次回への問い】英語でも日本語でもなく、実際の動物のなきごえを聞いたときに子どもはどのように反応するのだろうか？

4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは？）

<活動の内容>②自由遊び中に動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・英語講師の口元を見て口の動きや身振り手振りを真似しながら、動物の名前を言ったり、泣き声を発したりする子が多くいた。豚が絵本に登場した時は講師が言う前に、豚の鳴き声を何度も発していた。

・鳴き声図鑑を見せ、動物の横にあるボタンを押すと鳴き声が聞こえてきて様々な動物の鳴き声に興味を示していた。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】英語講師のジェスチャーを見て動物が何か分かり、手を挙げる子が多くいた。クイズ方式だと興味を示し様々な動物や鳴き声ができるようになってきたと感じた。

【次回への問い】英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

4-③. 探究活動の実践（乗り物の擬音語）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使い、擬音語を探る

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

乗り物のカードを見ると知っている物ばかりで、「BUS」「helicopter」

「Car」「boat」と次々に発音をしていたが、「ボート」を「ヨット」と日本語で言う子どもがいた。また、擬音語の英語と日本語の表現が少し違いと初めは首をかしげながらの発音。慣れて来ると順応性があり、英語での擬音語がためらわずに言えていた。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】積極的な子ども達が多くいる。また、何？と尋ねる子が多くいるため。覚えるのも早い。全ての物に興味を示す子ども達に英語を身近に感じる物を用意するなど考えていく。英語と日本語の擬音語の違いに触れる場面を設定したが、当初は表現の違いに少し戸惑い、首をかしげながら発音する様子が見られた。繰り返すうちに英語の擬音語もためらわずに発音していた。擬音語については、存在していることは理解している様子が見えた。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

初めは日本語でカードを見ながらジェスチャーを付けて行い「ぶんぶん」「どんどん」など分かるものは一緒にしていた。英語で「huff huff」「boom boom」太鼓は「どんどん」のイメージがあったみたいだが、英語講師の真似をして擬音語・擬態語を行っていた。「わくわく」「yay!」「ぶんぶん」「zzz…」と少し違うことに気づいている子も多くいた。



5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】日本語と英語での擬音語・擬態語の違いが分かり遊びの中で、繰り返し行うようになれば英語としての発音にも役にたっていけるかなと感じた。

【次回への問い】幼児クラスは英語で工作の時間があり、英語レッスンで学んだ単語にちなんだ工作を毎月行っています。英語で工作の時は英語講師が英語で説明し、保育者も日本語通訳をせず、工作の見本を一緒に作りながら参加し、子どもたちを手伝います。2024年度に読んだエリックカールの絵本"The very hungry caterpillar"と"Today's Monday"を再度英語で読み返し、子どもたちが主体的に、自分の「1週間なに食べる表」を制作してみてはどうか？工作を通して、食べ物の擬態語、擬音語への興味も深まっていくのではないかな？

4 -⑤. 探究活動の実践（英語で工作）

<活動の内容>⑤The Very Hungry Caterpillar、と Today Is Mondayの英語の読み聞かせを行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「月曜日なに食べる」は音楽を流していたため絵本に出てくる「chicken」「fish」と知っている単語は発音していたが、聞きなれない「string beans」や「fish」の前につく「fresh」を忘れてしまい「fish」を続けて発音している子も多くいた。「はらぺこあおむし」も同様に覚えている単語は言えるが、聞きなれていない単語だとジェスチャーが多くなっていた。



<活動の内容>⑤その後自分の「1週間なに食べる表」を制作する。

・英語の講師の真似しながら、英語の発音をしていた。「May I have～please」のフレーズが気に入ったのか子ども達同志でも会話していた。

また、個々に一週間のメニューを決めることができ楽しくクラフトタイムを行っていた。みんなの前で、発表する時も「This is My menu～is～」と英語で答える子も多くいた。



5-⑤. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 2冊ともにすきな絵本のためリズムに乗り楽しく見ることが出来ている。今後は単語を覚えるために英語の時間以外でも音楽をかけ言葉（単語）を耳から入れていくのも良いと感じた。その絵本に出てくる食べ物の英単語を使って自分で1週間のメニューを作る製作では、英語、発音が言い慣れてきたのかスムーズに英語が出てきていた。普段から話している子も増えてきているため、英語の時間だけではなくその時間以外でも英語で発音、会話が楽しめる工夫をしていきたい。

【次回への問い】 子どもたちはことばには日本語も英語もあり、またそれ以外に様子を表す擬態語や擬音語もあって、しかもそれらにも日本語や英語特有の音があることに気づいたかもしれない。また園には日本語や英語以外のことばを話す友だちもいることから、日本語英語以外の世界についても興味を持ち探究活動が広げられるのではないかな。